

新潟県

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 市町村合併問題県外視察報告

4.5

- 3 視点 歴史街道「峠の道」
- 3 ひろば 学校週5日制における「学校の応援団」
- 6 実践記録シリーズ 民具の保存を！
- 7 サークル交流 柏崎粉と卵の会（柏崎市柏崎公民館）／小国町陶芸クラブ（小国町中央公民館）
- 7 素顔拝見 神田久利さん（三川村）／田代洋子さん（糸魚川市）



リバーサイドロードの
桜並木
安塚町

No.603



今年も人事異動により六名の役員・委員の方々がご退任されることとなりました。ご退任に当たって左記の項目によりおことばをいただきました。

- ①異動内容・異動先等
- ②在任中、印象に残った事業、事柄等
- ③退任に当たって贈ることば (市町村合併問題への提言等)

今年の人事異動に伴う当会役員・委員 退任のことば

『県公連の一層のご発展を祈念』

ご多忙の中、ご寄稿いただきましたご退任の方々、第二の人生、または新しい所属職域での活躍、ご発展を祈念いたします。ありがとうございました。

①定年退職

②公民館在職1年間でありましたが、各種学級講座等に関わり、特に「女性」・「高齢者」



前理事
安達 伸一

の熱きパワーに触れ、今後の自分の生き方について考えさせられ、また、文化芸術等においては、当市から日展特選入賞もあり、このように多方面にわたり人と人との出会いのもとで楽しく有意義に過ごさせて頂きました。

③財政状況等の厳しい中、広く住民の求めているものを的確に把握しながらの取組みが大事なことと思います。

①定期異動

新発田市総合管理
部地域情報課長



前副会長
篠田 令子

②第43回関東甲信越
静公民館研究大会の運営に携わったこと。

わたしはただそこにいただけという感じでしたが、よい体験でした。それから、いろいろなジャンルのかたがたとの出会い。気取らず、本音で人と接することの大切さを改めて知りました。

③自分の企画が実現する、その喜びを感じることでできる公民館。労を惜しまず、踏み止まらず、自分にしかできないものを見つけてください。

①定期異動

長岡市会計課長
②完全学校週5日制、学社融合等環境変化の中、新潟方式で成功裡に開催



前副会長
馬場 正和

きた第43回関東甲信越静公民館研究大会や、県公連・中公連の大会・研修会を通し多くの人と出会い学ばせていただきました。

③それぞれの公民館で、地域に根ざした特色ある活動が行われております。市町村合併によりこれらの活動が画一化しないよう、地域づくりの拠点としての一層の活動を期待しております。

①定期異動

十日町市商工観光課長



前評議員
大島 勉

②平成13年7月に十日町市で県大会・県美術展が、ほぼ同時に開催されました。

また、文化協会にも関わり運営委員の皆様から大きな示唆を与えていただきました。

在任2年間でありましたが、学習環境の整備、職員の意識改革の実践に努めるように心がけました。

③市町村合併を控え、今こそ、公民館活動のメリット性を地域住民に訴えるチャンスです。ご奮闘をお祈りします。

①任期満了

②民間委託という手法を進めた、まちづくり、人づくり事業に情熱を傾注できたこと。



前評議員
築田 勝二

この事業で、ローマも人材も一日ではできないことを再確認させられた。

③辛口のメッセージを贈るとすれば、

- ・社会教育は社会教育だけではできないことを肝に銘じよ。
- ・合併問題・社会の大変革・教育改革など、一歩・二歩先を見据えた公民館活動にとりくめ。
- ・自己啓発を怠るな。
- ・健康管理を怠るな。

①勲奨退職による

②景虎物語夏の陣、秋の陣、雪の陣。自主組織である地域づくり協議会役員



前理事
塚田 信行

目を見張る活動と活躍。総合学習の実践における学校、地域及び行政の積極的な連携。

③わずか1年の勤務でしたが、10年にも匹敵する貴重な時間をいただいたことに感謝いたします。公民館活動も年々難しくなりますが、更なる発展を祈念いたします。当市で7月18日に行われる県公民館大会が、盛会となりますよう皆様の来市をお待ちしております。

視点

歴史街道「峠の道」

塩沢町公民館長
阿部 弘 文



清水峠は、上杉謙信公が関東攻めの際に利用した街道であり、明治十四年には莫大な費用をかけて開削、関東への要路となった。当時の三囲街道よりも近道であり、通行量が増えてきたことにより大改修がなされ、盛大な竣工式が行われたと伝えられている。それから数年後雪崩によって廃道となった。今でも所々にその道跡が残っている。

現在は「歴史街道米のみち」として整備され、大自然のブナ林が日頃のストレスを解消してくれる。

東側には、日本の百名山の一つである山頂の美しい巻機山(二九六七m)がそびえており、夏場の登山だけでなく春スキーでも多くの人で賑わっている。

雪深いこの山間からの清流によって育まれた米は、魚沼米のトップブランドとして高い評価を頂いている。

米だけでなく、この肥沃な大地で生産された作物は加工され、付加価値をつけ、峠を越え、昔からこの地域の経済を支えていた。これからも先人達の「峠の道」に学び、地域経済の発展を考えていかなければならないのでは。

H O T N E W S

掲 示 板

新潟県公民館大会 第1回実行委員会開催

- ◇日時 平成15年4月28日(月)
午後1時30分から
- ◇会場 上越市女性サポートセンター
2階第1・第2講習室
- ◇出席 上公連役員9人
今井県公連会長
鈴木事務局長
- ◇会議内容
 - (1)平成14年度
上公連事業実施報告について
 - (2)平成14年度
同歳入歳出決算について
 - (3)平成15年度
同事業計画(案)について
 - (4)平成15年度
同歳入歳出予算(案)について
 - (5)第54回新潟県公民館大会兼上越公民館連絡協議会研修大会についての
詳細取り組み
 - (6)その他情報交換

学校週五日制における「学校の応援団」

ひろば

潟東村公民館運営審議会委員 篠山 健

学校週五日制がスタートして、地域の教育力が問われています。これまでも、学校と地域をつなぐことが重要だったと思います。

昭和四十七年頃、私は新採用教員で安田町に着任し、山手青年団と出会いました。仕事を終えた若者や高校生が、月二・三回、小学校に集まってきた。私は青年団の顧問や町体育指導委員をしました。

青年団の皆さんは、小学校の行事になると、協力してくれるのです。運動会は勿論のこと、学校の文化祭には、青年団コーナーがあって、団員で作った庵地焼の作品を展示して文化祭を盛り上げてくれました。まさに、山手青年団は、学校の応援団でした。

今、私は潟東村に勤務して、学校と地域をつなぐ学校づくりを進めています。

一、総合的学習に地域の力を
潟東村の特色から、地域の先生や学校ボランティアと共に学ぶ教育活動を推進してい

ます。例えば、米作り調査隊、鯉の稚魚放流体験、福祉体験などに、学習の成果が上がり、地域に発信しています。

また、文化祭の学習発表会には、子どもの伸びた様子を見てもらい、地域の方々から応援をもらっています。

二、地域・行政とタイアップ
ゆう学館施設を中心に、「わくわく・ドキドキ子どもクラブ」が、平成十四年度からスタートしました。月の土曜日一、二回にボランティア世話人の力で活動しております。十クラブが増えました。今年から、子どもセンターも立ち上がり、情報発信と活動の輪が期待されています。

これからは、子ども一人一人を育てる学校の応援団は、行政と一体となった地域の役割に求められています。地域の中で子どもに生きる力を育んでいこうという確かな芽が広がっています。



さて、3ヶ所目のさいたま市は合併してから時間もおり、まもなく政令指定都市ともなるので調整等は終えたものと思われた。しかし、こちらも浦和地区と大宮地区の調整がつかず、合併後も1市3方式のまま運営されてきたが、この4月の政令指定都市化に伴い急きょ9つの区に整理をした。各区に1館の基幹公民館を設置し予算も横並びに、人事交流もこれからということで結果はまだ見えないという答えだった。



静岡市中央公民館の広い団体活動室

訪問した浦和地区にはこれまで28館の地区館があり、各地区で月1回の館報を発行し、全戸配布している。地域に密着しているだけでなく、各種講座も地域性により講師陣にも恵まれ(高名な教授が多く近隣に住んでいるらしい)ハイレベルな講座を実施してきたという自負がある。大宮・与野との人事交流や予算の平均化に伴い、レベルの維持に担当者は不安を持っているようだ。

さて、このように先の見えない「さいたま市」だが、平成14年9月に公民館運営審議会が(全市で1つ。各館には他に無償の協力員制度がある。)3名の公募による新委員も含めて「政令指定都市に対応した公民館の役割と運営について」を答申としてまとめた。これからようやくひとつの市としての動きが始まる。

○DNAの違い?

静岡市と清水市は、互いのあまりの違いを“DNAの違い”と例えた。それは開館時間や予約方法といった些細なことではなく、市民に向き合う姿勢と「公民館のあり方」に対する考え方が違いすぎる……ということらしい。

それが1市2方式という合併後の姿としては少々残念な形となってしまった。合併の際、市長は「サービスは重い方に、負担は軽い方に」だったという。もし、それがすべてにおいて実現され

るのであれば、市民にとって「合併」は素晴らしいことのはずである。

開館時間は長い方に、施設は各種設備の完備したものに、使用料は安く、…しかしなかなかそうはいかない。財政事情もあるだろうが、どちらも「市民にとってよりよい形である。これが本来の公民館のあり方である」と考えているからであろう。

これをのりこえるものは何か?

両市とも、一步譲って相手の利点を見つめ直すことから始まるのではないだろうか。ここまで築き上げてきた歴史があり、両市とも素晴らしいところが多々ある。例えば静岡市の市内のすべての館をつないだ予約システムは素晴らしい。多くの人が簡単に公平に公民館を借りることができる。そして、地域とのつながりや地域課題の把握が特に求められている今、清水市の地域とのつながりや公民館人としての情熱には頭がさがる。住民自治を育てる公民館の役割・機能からしても取り入れたいところである。

もうひとつは、多少の変化は恐れないこと。合併を「問題」ではなく、もう一度新しい夢に基づき、課題を整理し直すチャンスと考えたい。そのためにはもちろん柔軟な体制づくりと予算は欠かすことはできないが、新しいビジョンが変化を受け入れやすくし変えていく力ともなるではないか。

○視察を終えて

3市の視察では、どこも試行錯誤の途中にあり残念ながら合併の手本を見るといふ訳にはいかなかった。

しかし、重要であると感じたのは……「新しいビジョン」を希望と情熱をもって描くこと。そして出来ればそれには冷静な第三者の視点を入れること(さいたま市の公運審の答申のように)。

変更可能な柔軟な体制づくりをすること、そして、市民に直接影響のある免除団体や登録要件はせめて統一したいことなどである。

どこにも手本はない。試行錯誤して独自の方法をさぐっていくのであれば、「合併は問題」ではなく、チャンスと考えたいのだが、はたして?

合併に関する諸問題調査表

調査期日 H15.3/12~14

	静岡市	清水市	さいたま市
1 人口(H14.4.1)	約474千人	約235千人	約1,042千人
2 公民館一覧	・中央公民館 1館 ・地区公民館 9館 ・分館 7館	・18公民館 ・1万人にひとつの公民館規模で住民の顔が見える	・中央公民館 3館(浦和・大宮・与野に各1) ・地区公民館 50館
3 利用料	有料 毎月月初に一斉受付但し登録団体・社会教育団体は年1回認定の手続きを経て1/2免除	原則無料(社会教育委員会議で認定された団体と各館に登録した団体)企業研修・他館の団体有料	無料(中央公民館をのぞく)
4 合併前の組織と合併後の組織の大きな変更点	変更なし 中央公民館が統括	変更なし 生涯学習課が統括(現社会教育課)	変更なし社会教育課統括 新年度より変更 基幹公民館9 その他地区館
5 合併する市町村の相違点をどのようすりあわせたか	管轄の方法・休館日・開館時間を初め、事業方針も統一できず、1市2方式。	左に同じ 政令指定都市までにはなんと調整統一したい。	すりあわせはせず合併。 合併後「答申」をまとめ、それに従い今後細部調整。
6 公民館の将来的ビジョンと役割について	両市とも互いの生涯学習計画を調整できず、変更もしていない。 市民の創造力をかきたてる新しい講座をめざす。	左に同じ 地域密着型。 地域の声をいかに事業実施をめざす。講座は、運営組織を作り開講後は自主運営をめざす。	「政令指定都市に対応した公民館の役割と運営について」答申(運営)H14.9月 基幹公民館は予算・人員を横並びに。 調査細部は今後調整。
7 公民館運営審議会の有無と設置状況・構成	有(全市で1つ)15人以内各地区・各組織から推薦。	有(18館に各1)各5~8人 自治会長・婦人会長・校長など、館で選考。館長判断	有(全市で1つ)15人 H14公募で3人募集 他に各館に公民館運営協議会(無償 浦和地区のみ)
8 中央館に調査研究部門があるか。専門職員を配置しているか。	・専門職ではないが、指導係を6人配置し、調査研究を行っている。 ・指導係は一般職からの異動職員。地区館の財団職員も交え、3班にわかれ、テーマを決めて研究(各月1回、年12回実施) ・起案・実施報告・評価等の資料が各館で閲覧可能 ・財団職員は専門職化する方針。	全市に社会教育主事27人、教育委員会に9人。 社会教育主事のデータベース化を図る計画。 全館で社会教育の理論に基づき活動してきたので、職員の中でも公民館の理解は深い。 社会教育主事の必要制はないが、置きたいと考える。	生涯学習振興課…文化団体の振興・情報収集提供業務各担当の起案・報告共に中央公民館まであがる。 中央公民館で指導を行う。 (これまではベテランがいたが、今後は不可能になるのか?という不安も) ☆初任者研修等、浦和地区では職員の研修の体系化をすすめていた。
☆その他…現状での課題点	公民館に対して、住民サービスに対する考え方が違う。免除対象も違う。政令市に向けてすり合わせ作業が課題。	左に同じ 同じ市民で同じ団体でありながら有料と無料の場合が。《登録》の要件が課題。	子供・人員を春から横並びにし、人事の交流も行う。 これまで通りの事業展開等が出るか不安。

市町村合併問題

県外視察報告

特集

DNAの違いをのりこえるために

新潟市曾野木地区公民館主任 平田 栄子

○はじめに

現在、新潟市では12市町村との合併を2年後に控え、様々な相違点をどのように調整していくかが課題となっている。

そうした合併問題の調整や課題解決の糸口をさぐるため3/12(水)～14(金)の視察では、4月に合併直前の静岡市と清水市、そしてすでに浦和市・与野市・大宮市と合併し4月には政令指定都市となるさいたま市の3市で調査を行った。

静岡市は中央公民館、清水市では社会教育課(4月からは静岡市教育委員会清水教育事務所生涯学習課)、さいたま市では浦和中央公民館で話を伺うことができた。



静岡市中央公民館(アイセル21)の予約システムと当日の会場使用表

同行者は、新潟大学の雲尾周助教授と新潟県公民館連合会の鈴木友夫事務局長。お二人とも新潟市の公民館運営審議会委員である。

○3市の特徴…クールな都市型・ホットな地域型・そして両方を併せ持つ中間型

静岡市は平成4年に開館した広いロビーや明るい子ども室まで持つ中央公民館を中心に地区館が9館、山間地の村を合併した名残の分館が7館あり(貸館のみ)、中央館と地区館はLanでつながった貸館予約システムがある。このシステムのおかげで月1回の申込み開始日を除き、どの館でも他館の予約と使用料の納入が可能である。また他館の事業記録や計画をいつでも見ることが出来る。有料施設ではあるが、社会教育関係団体(規則で定められている団体)と登録団体(23条に抵触していない・前年度の公民館での活動実績が10回以上ある団体)には5割の免除規定がある。

中央館は市の直営だが、地区館は受付業務や講座の企画実施の大半を財団職員が行っている(今後徐々に財団職員を増やし、将来的には完全委託を構想している)。

公民館運営審議会は全市でひとつである。16人の委員を公民館で選考し、委嘱している。

それに対して、合併先の清水市は、地区館が18館、各館の調整役は社会教育課である。中央館はない。施設は昭和30年代からのものもあるため、静岡市中央公民館ほどには完備していないが、市の直営である。小規模な地域密着型公民館として、毎月1回の館報の発行を全戸配布など、地域に公民館の意義や活動は浸透しており、住民と極めて近い関係にあるので(学習相談だけではなく)様々な相談に訪れる住民も多いという。地域の声を聞きやすくということで公民館運営審議会も各地区館にある。委員の構成は地域の顔……自治会長や婦人会長などで5人程度。委員との協力体制もよく、事業への協力もあり、地域の声を活かし事業運営をめざしている。

基本的に全館無料。社会教育関係団体は社会教育委員会議により認定されて無料となるが、この認定団体には、連合会のような上部組織が含まれ、ここが認定されれば下部組織はどこも無料である。また、各館に登録した団体も無料となるが、公民館講座から派生した団体でなければ登録することは出来ない。登録団体は登録した館以外では有料となる。

合併後、社会教育委員会議は統一されるが団体登録等は統一されない。

公民館に関しては調整できず1市2方式、つまり旧市の体制と運営方法でそのまま進むこととなった。あえて例えるならば、クールな都市型とホットな地域型は折り合えなかったということである。

実践記録

62

シリーズ

民具の保存を！ ～伝統継承教室の開催～

新潟市黒埼地区公民館 主査 大野 耕 治



文化祭出展風景

1 はじめに

当公民館のある黒埼地区（旧黒埼町）は平成13年1月1日、平成大合併の先陣をきって新潟市に合併した。人口約2万6千人の新潟（蒲原）平野で、交通の要衝地でもある。

黒埼インターから北陸自動車道が関西へ、関越自動車道が関東へ、磐越自動車道が福島へ、東北自動車道が山形へそれぞれ延びている。

また、国道8号新潟バイパスなどの交通網の結節点であり、流通業務の拠点となっている。さらに住宅地の開発が急速に進むなか、平成3年に大型観光施設「新潟ふるさと村」が国道8号と大河・信濃川の間にオープン、その周辺は大型店舗や、サービス産業の進出で環境の変化が著しいところでもある。

2 黒崎民具保存会

黒埼地区南部の農業振興地域では、昔から使ってきた農民具等を伝承しようと昭和47年ころ黒崎民具保存会が発足した。

保存会では作っているものは、わらを材料としたわらじ、草履、メ縄、釜敷、猫ちぐらなど、竹を材料としたほうき、竹とんぼ、かご等がある。

子どもたちとの世代間交流を目的として、地域の小学校児童を対象に竹トンボ作りの指導にも出かけている。小刀の使い方に悪戦苦闘する子どもも大変だが、それを指導する方も大変と察する。それでも、何よりも出来上がった時の子どもたちの感激の様子や、竹トンボを飛ばして喜び勇んでいる姿を見ると、指導した自分たちのほうが嬉しくなるとのこと。

保存会では夏の「黒埼まつり」や秋の「黒埼地区文化祭」には、作品の展示・販売の他、竹とんぼ、草履

作り等の実演も行い、来場者には大変好評である。

昔からの民具を伝承するだけでなく、年に数回研究会を開いてアイデアを出し合い、改良を重ね新しい民具民芸品作りに研鑽している。

親睦と融和をモットーに毎年研修旅行を実施、旅先での民芸品やお土産コーナーの品々の研究には余念がない。例えば、枝にバランス良くとまったトンボやミニ門松等があり、作る皆さんにとっては趣味と同時に生きがいでもある。

3 「伝統継承教室」開催

そんな保存会の力を借りて平成13・14年度に黒埼に伝わる民具を地域に伝えようと「伝統継承教室」草履作りを開催した。

指導者は黒崎民具保存会の人たちに依頼、大人を対象に募集したところ、20代から60代の男女26人が参加した。

我々の思いとは違って参加者に黒埼地区外の人が多く、関心の高いのには驚かされた。



教室開催状況—縄ない—



教室開催状況—草履づくり—

初日はわらを編んで長さ2メートル位の縄にすることから始まり、わらを編んだことのない人は悪戦苦闘2時間でようやく完成し、それだけで感激した人もいた。個人差はあるものの2回目から参加者全員が草履作りにとりかかり、縄を引っ掛けて草履を編みこむ「のめしこき」という道具を使って、指導を受けた。時間の経過とともにだんだん草履の形に出来上がってくると、参加者一同

に感激の声が上がった。

最終4回を終えるころには、全員が一足の草履が出来上がり、物を作る喜びとともに、出来たという達成感で満ちあふれていた。

4 参加者のアンケートから

○初めて草履作りを体験しました。

先人たちの知恵にただ感心するのみです。またの講習を楽しみにしております。

○前からわら細工に興味を持っていました。こんな機会を待っておりましたので市政だよりで見つけすぐ申し込みました。夢中になった毎回の2時間、皆さんと仲良く楽しい4回を過ごさせてもらいました。

○日本人にとって、お米のもととも言えるわらに触れることが出来てとても良かったと思いました。初めての体験でしたがこれからも忘れずに、有意義に活用したいと思います。

5 講座を終えて

今日、資源の大切さや環境問題を思うとき、米を収穫した後のわら、

その「1本のきゃしゃなわら」の集まりが様々な形に変わる。

太古の昔から伝承されてきたこの素晴らしい知恵という文化を無くしてはならないと思う。

2回の講座の参加者26人の内、12人がもつ

と色々な民具民芸品を習い、作りたいと「黒崎民具保存会」に加入した。

同保存会は、会員の平均年齢が76歳を過ぎ会員は年々減少、後継者対策が急務とする中で新会員、しかも若い人たちが加入したことで活気が戻ったと会長も喜んでた。

時代の流れがどう変わろうと地域の文化を大切にしながら、さらに特色ある黒埼地域づくりを目指し、支援したいと思っている。



手作りお菓子で
和やかな家庭
柏崎粉と卵の会

「お菓子作りを通じて明るい家庭を築き、会員相互の親睦を計る」という目的のもとに、八十六人が三組に分かれて月一回学んでいます。今年は一、九年目になります。若いお母さんから孫のいる人達迄、幅広い年齢層です。会の名が示すように洋菓子が主です。講師の作った物をその場で試食させていただき、自分達の作った物は家に持ち帰り家族と共にいただきます。柏崎の店ではあまり見かけ

ない物、今、東京で人気のあるお菓子等、そのレシピは一冊の本に取りきれない程です。お菓子を作ると嫌なことも忘れ、それを口にする時幸せを感じます。飽食の時代、愛情のこもった手作りお菓子は、家庭を和やかにすることと思

(同代表
原 隴子 記)



仲間はみんな陶芸家

小国町陶芸クラブ

この教室・サークルは、当公民館では最も長い歴史と実績を誇っています。

素晴らしい講師に恵まれ、年間を通して前期は教室として、初心者基本をみっちり



と学び、経験者は更に腕を上げるために励みます。

そして、後期はサークルとして活動し、秋まつりや芸術村会館で開かれる作品展への出品を目指します。

長い「教室」の歴史を経てサークルに移行しただけあって、和やかな中で楽しみながら、仲間づくりと制作に挑んでいます。そのつながりが、このサークルを長く続けさせている力のように思えます。

そこで、もう一つの自慢は、その作品の素晴らしいことです。くろうとはだしの腕まえは努力と相まって、芸術の域に達しているといってもいいでしょう。

(小国町中央公民館長
田中富志夫 記)

三川村教育委員会は教育長含め9人、内公民館を含む社会教育係が4人。この社会教育係をまとめる係長が、平成14年度に人事異動で配属された「久利」さんです。

平成14年度に人事異動で来た係長ですが、教育委員会での業務は通算13年になるベテラン戦士です。配属早々はじまった完全学校週5日制対応事業を鮮やかに



三川村教育委員会
社会教育係 神田久利さん

こなし、社会教育係をまとめつつ、社会体育関係の行事を一手にたたききる！快刀乱麻の大活躍です。

今年度教育委員会の事務局は閉校になった小学校に移転しましたが、人事異動では誰一人変わる事のなかった教育委員会で、見た感じは恐いが、(実際はやさしい)頼れる兄貴に社会教育係をまとめていてもらいたいと思います。

(三川村教育委員会社会教育係 杉山正樹 記)

元銀行員の彼女は、主事として3年目を迎えました。前主事は、男性で9年近く勤めた後任者として選ばれました。

女性ということで、地区民にとっては、おどろきと不安の面があったようです。しかし、「立場は、人を育てる」という言葉のごとく、着任当初から臆することなく、仕事に取り組み、地区民との交わりも自然体で、公民館の窓



糸魚川市浦本公民館
主事 田代洋子さん

口は常に明るくよい雰囲気を出してくれています。また、自らが生涯学習としての舞踊・書道・軽スポーツにと、幅広く学び、お酒のつきあいもなかなかなので、皆に親しまれている彼女はいつも最後までがんばっています。

(糸魚川市浦本公民館長 田代建治 記)

素顔
拝見

資料紹介

五十周年記念誌

神奈川公民館連絡協議会

湘南の海の色を連想させるような、レザックあおたけ表紙の五十周年記念誌が惠送されて参りました。

巻頭は、会長の発刊によせて、神奈川県知事の発刊を祝して、同教育長の発刊に寄せてで始まっております。

内容は、第一章公民館の誕生と活動(1)の教育改革―占領軍による四大指令―(中略)(7)の生涯学習社会の中の公民館の再整備、第二章神奈川公



民館連絡協議会の結成と活動、第三章神奈川県公民館大会の推移、第四章研修活動の推移(1)実践公民館委託事業(中略)(6)生涯学習推進協議会、

第五章広報紙にみる公民館活動、第六章全国大会、関東甲信越静公民館研究大会での活動、第七章これからの公民館と神奈川県公民館連絡協議会の今後(対談)、そして付録から構成されております。『記念式典や記念事業が大々的にやれなくとも、記念誌だけは発行しよう』という県公連常任理事会の皆さんの心意気に敬意を表します。

event information

平成15年6月の催物ご案内

☆プラネタリウム新番組☆ 6月7日(土) 8月31日(日) 「おじゃる丸 いん石小僧がふってきた！」

【内容】

ある夜、妖精貴族「おじゃる丸」が住む月光町の夜空に流れ星が降ってきました。それは宇宙から落ちてきた「いん石小僧」。電ボやカズマは宇宙に返そうとしますがよい方法が見つかりません。そこへトミー爺が「今夜は赤い月の夜ですよ。」夜空には真っ赤なお月様。それは宇宙につながる満月ロードだったので、さあ、やんごとなきみやびな妖精貴族「おじゃる丸」の冒険が始まりました。今回の番組では、おじゃる丸の活躍とともに、美しい夏の星座や星空を紹介します。

6月の休館日は

2日(月)、9日(月)、16日(月)、17日(火)、23日(月)、30日(月)です。

※毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)の定休日のほかに、設備点検整備等のための休館日があります。(6月は17日休です)

★生き物調査★

インターネット生き物調査

【内容】

調査する生き物は、セミ・タンポポ・鳴く虫・外来植物の4種類です。これらの生き物が「どこに」、「どういうように」いたかなど、見つけた結果と状態をホームページに入力して送信してください。その結果がホームページの調査マップにあらわれます。

全国10カ所の科学館・博物館のホームページに設置されている調査ページから調査した内容を入力できます。詳しくは、

【http://www.nsm-unet.ocn.ne.jp/ ikimononeo/iki】をご覧ください。

〒950-0948 新潟市女池南3丁目1番1号

新潟県立自然科学館

あ と が き 県公連理事・評議員会、関口公連理事総会、上・中・下公連役員会等会議が白押し、県公連事務局もエンジン全開、始動体勢に入っております。(鈴木 記)

表紙解説 安塚町「リバーサイドロードの桜並木」500本の桜並木が6km続く、リバーサイドロード。そばを流れる小黒川の水面を、桜の花が美しいピンクに染めます。

発行所 新潟県公民館連合会 発行人/会長 今井昭友 編集人/事務局長 鈴木友夫 Eメール/ni-koren@juno.ocn.ne.jp 〒951-8053 新潟市川端町2-9 県林業会館内 TEL・FAX (025) 224-6073

印刷/第一印刷所 〒950-8724 新潟市和合町2-4-18 TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776 【定価1部150円 年共1,800円】